

中2

数学

ポイント

名前 _____

確率

_____ 月 _____ 日

まとめ 確率

教科書 P.161~P.172

標準

どの場合が起こることも同様に確からしいとき、確率 = (あることがらが起こる場合の数) ÷ (起こりうるすべての場合の数)。樹形図や表をかいて、もれなく数える。

例(1) $3 \div 6$

$$= \frac{1}{2}$$

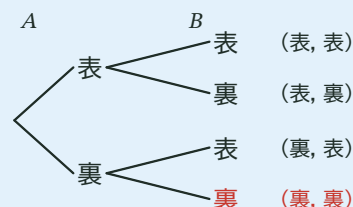
$$3 \div 6$$

さいころの目は6通り。偶数の目は 2、4、6 の3通り

(2) 2枚の硬貨(樹形図)

表と裏の出方は、樹形図から4通り。

2枚とも裏が出るのは1通りなので、確率は $\frac{1}{4}$



樹形図で、もれや重なりがないように数える

(3) $6 \div 36$

$$= \frac{1}{6}$$

$$6 \times 6 = 36$$

大小2つのさいころで、和が7になるのは (1,6) (2,5) (3,4) (4,3) (5,2) (6,1) の6通り

(4) $1 - \frac{1}{8}$

$$= \frac{7}{8}$$

$$1 - \frac{1}{8}$$

3枚の硬貨で、少なくとも1枚は表 = $1 -$ (3枚とも裏)

